

円福友の会 エコ村支援事業

『教え合い学び合うみんなの学校農園』からの便り (2016年8月1日版)

円福友の会 顧問 吉田恒昭

今年も例年同様に、円福友の会のエコ村支援事業を現地で担うディレクターのソファットさんとメールを交信しつつ、藤本光世住職のアドバイスを受けながら予算に応じて計画を立てました。会員諸氏の皆様方のエコ村支援指定への浄財が約35万円近くになっておりましたので、この予算を踏まえて以下の実行計画を立て、友の会主幹のご住職のご承認を頂きましたので、支援家族の近況とともにご報告致します。

今年度の主な活動は (1) サロン校長先生の強い要望に応じて深井戸(掘抜井戸)2基(プラチナ・ギルドの宮田芳光様ご家族と小生が長い間指導をしておりますアジア開発学生会議の岩本あき様ご家族からの寄付を充当)を学校農園に追加設置します、(2) コンクリート・リング(リング直径1m×0.5mを15個連結して深さ7.5mの地下水面まで井筒を造る)の浅井戸を農家に数基設置します、(3) 広がった学校農園整備のために鋤鉞などの農機具を購入支援します、(4) 地元にある資材で簡素な堆肥小屋を造ります、(5) 『みんなの学校農園』紙芝居のナレーション翻訳と実演指導、(6) 11月12日(土)予定の第4回円福友の会ツアーとの集会費用(仮称農民の日・品評会開催)、(7) 現場作業の指導と管理費と現場ディレクター旅費・日当・謝金など、そして(8) 予備費です。

これらの優先的活動は現地ディレクターのソファットさんとサロン校長先生、村の世話役サオ・ルンさん達が村の状況をしっかり把握して良く話し合って納得して提案してきたものです。つまり住民主導と参加を念頭に置いた自助自立支援のための活動です。地元の皆さんが事業の主役で私たち円福友の会は脇役に徹するのが理想的な事業の進め方と考えています。

活動の具体策立案に当たってはソファットさんが昨年農家に設置した7基の井戸を全て巡回し、経過をモニターして記録しています。その中で第2回円福ツアー余剰金で寄贈した井戸番号TW06の家族の主婦であったティ・ロンさんは昨年10月に肺炎で亡くなってしまいました(写真①)。せっかく掘抜き深井戸が完成して清浄な水が使えるようになって、家族の健康増進が大いに期待されていたのに本当に悔しく残念なことでした。

今春もソファットさんは近隣農家を一軒一軒訪問して、農家の人たちと雑談をしながら家族生計調査をしてきました。この農家訪問調査で撮影した写真とビデオの中にゴエン(Ngoeurn)さん家族がありました(写真②)。この写真で分かるように子供たちは明らかに栄養失調です。ソファットさんは村を詳細に訪問調査しながら、時には貧しくて生計が立ち行かない家庭には米などをポケットマネーから支給した



ティ・ロン家族の昔の井戸(左)と汲み上げて鍋に入れた茶色の水(15年2月撮影)



①右端が亡くなったロンさん(15年6月撮影)

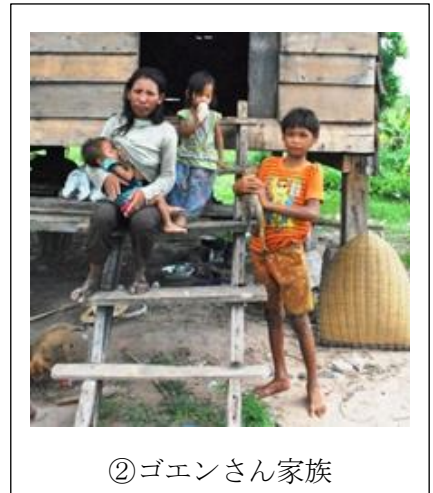
りしています。彼は村人や児童から全幅の信頼と尊敬を得ているようです。ソファットさんは、井戸水を最も必要とし、農業に熱意のある家族を選んで今年の井戸設置優先順位をつけてきていますので、この優先順位に沿って井戸を支援する予定です。先週、富沢進様からご一族の皆様で2基の井戸を寄贈したいとの有難い申し出を頂きました。11月予定のエコ村訪問までに井戸を完成させて被支援家族ともども喜びを分かち合いたいと考えています。

円福ツアーが毎年訪問するナチュラル小学校から少し奥地に入りますと貧しい家族が多く見られ、ゴエンさん家族のように栄養失調の幼児の姿を見ることは少なくありません。栄養不良の子供にとって数キロ先の小学校に通うことはとても難渋です。農村でありながら家族

で食糧の確保（自給自足）が出来ないのは、井戸もなくこの地に合った農法が普及していないことが大きな原因です。従って、より良い農法の普及は優先度がとても高い活動と言えます。一方ではドイソクおばさんのように目覚ましい農業を実践して大きな成果を達成している農家も数軒ありますので、彼らが指導者（先生）となってコミュニティ全体にこの地区に合った効果的な農法を普及させれば、村全体の生計向上に希望が持てるかと期待しています。将来村のリーダーとなるような篤農家をまたの機会にご紹介したいと思います。

森を切り開いてエコ村に住民が入植を始め未だ数年ですが、円福友の会が寄贈した井戸を周辺住民が共同で利用しながら自助共助の精神が芽生え始めました。他の慈善団体から寄贈されたと言う中古の小型耕耘機を村全体の共有物として利用し合っている姿も見られました。

以下では、円福友の会支援、とりわけ春日喜代子様が多額の浄財、で支えられたエコ村井戸寄贈運動の延長線上で自助自立を目指して始まった『教え合い学び合うみんなの学校農園』の活動をソファットさんとサロン校長先生が撮った写真でご紹介します。



②ゴエンさん家族



③支援の農機具とやる気満々の児童達



④多年草の雑草トレンが最強の敵

先ずは圃場整備です。4月の酷暑を過ぎ、6月には雨季が始まります。円福友の会から寄贈された鋤・鍬や灌水用バケツなど農機具が揃って、さあ作業開始です（写真③）。雨が毎日降るようになってきますと、土が柔らかくなり雑草を除き易くなりますが、ススキのような多年草雑草のトレンが最大の障害で

す。この雑草を根気よく掘り起こし抜き取って耕さなければなりません。写真で見られるように体力のある男子生徒の作業です。(写真④)。このタイミングで、本格的な農園整備が先生と児童達の手で始まりました。土を掘り起こし畝を造り(写真⑤⑥)、種を蒔き(写真⑦)、苗床を造り(写真⑧)、苗を移植するなど、農園は児童達で大忙しになりました。



⑤南側農園 皆で作業すればはかどります



⑥西側農園整備



⑦種蒔きは大好きです



⑧堆肥小屋と苗床が完成です



⑨南側圃場のトウモロコシ



⑩スイカが沢山採れました



⑪パパイヤ

農園は3つの地区（北側、西側、南側）で構成されています。校舎の南側の農園にはトウモロコシ、スイカなどが植えられました（写真⑨⑩）。第1号寄贈井戸の脇に植えたパパイヤは実が鈴なりです（写真⑪）。西側の地区にはジンジャー、豆など植えられました。2014年11月の第2回ツアーで富沢孝ご夫婦が植えたマンゴーの木は無事活着し、校庭の南側に列をなしてすくすくと成長しているのが判ります（写真⑫）。



⑫富沢孝ご夫婦お手植えのマンゴーの木

良い作物には良い土が不可欠です。学校農園では堆肥作りを重視することになっています。堆肥小屋は村一番の農業達人のドイソクさんのアドバイスで、現場周囲で手に入る材料で先生と児童であつと言う間に完成したものです（写真⑧）。

ドイソク夫人（未亡人）は2011年にカンボジアで有名な農村開発NGOからエコ村で有機農法の指導を受けた3軒の農家の中の1軒です。彼女は自助努力で年ごとに大きな成果を上げています。例えば2012年からは養鶏を始め、2013年には子豚の養育に挑戦し、今年（2016年）は、子豚生産にまで発展させ、エコ村農業発展の先陣を切って頑張っています（写真⑬）。2013年11月に円福友の会第1回ツアーがドイソクさん宅を訪問した際には新鮮なパパイヤなどを沢山ご馳走になりました。



⑬ドイソクさん(2016年7月)

ドイソクおばさん今では『教え合い学び合うみんなの学校農園』の先生として児童達や村人たちを指導するまでになりました。そして、7月21日にはドイソクさんが学校農園に登場して、学校農園整備員としてボランティアで働く青年のアン・セイハ（Ang Seyha）さんと児童達に農法実施指導を始めました（写真⑭）。自主的に始めた凄いことです。円福友の会が目標とするエコ村での自助共助の精神が少しずつ芽生えて発展していく姿が見えてきました。村の人たちがお互いに信頼し合って『教え合い学び合うみんなの学校農園』がいよいよ動き出してきたようです。



ドイソク“先生”の実技指導（前列：左からサロン校長、アン青年、ドイソクさん）（2016年7月）

以上（2016年8月1日記）